

令和6年度第3回(第37期)浜松市社会教育委員会会議録

- 1 開催日時 令和6年12月19日(木)午後13時15分から14時45分
- 2 開催場所 浜松市役所本館8階802会議室
- 3 出席状況
- | | |
|------|--|
| 委員 | 晝馬るみ委員長、山本巖副委員長、李受眞委員、
花井清孝委員、松井里華委員、飛田ひさ子委員、
村上剛委員、中村朋子委員 |
| 事務局 | 加藤生涯学習担当課長、中村生涯学習推進グループ長
袴田指導主事、石塚主任、新林 |
| 欠席委員 | 近藤潤子委員、澤根緑委員 |
- 4 傍聴者 0人
- 5 議事内容
1. 生涯学習推進大綱の改定について
 2. 主要事業の実施状況について
 - ・生涯学習人財育成事業
 - ・浜松市と大学との連携事業
- 6 会議録作成者 創造都市・文化振興課生涯学習推進グループ
袴田指導主事, 新林
- 7 記録の方法 発言者の要点記録
録音の有無 無

8 会議記録

- 1 開会
- 2 委員長あいさつ
- 3 議事

(1) 生涯学習推進大綱の改定について

■事務局から、生涯学習推進大綱の改定について説明

■意見・感想・質疑応答

晝馬委員長：

事務局より、浜松市生涯学習意識活動実態調査について改めて整理していただいた。論点としては市の生涯学習事業に関する情報発信についてである。協働センターでは生涯学習の講座・イベント等について広報活動をしているが、世代ごと、情報収集方法に特徴があることがわかったため広報の仕方について改めて考える必要がある。まずは情報発信についてご意見を伺いたい。情報発信の例として、浜松市内の小・中学校では保護者への連絡ツールとして「さくら連絡網」が活用されている。保護者世代のほとんどの方がさくら連絡網を使いこなし、学校側からの情報発信ツールとして有効活用されているように思うがいかがか。

花井委員：

前任校での連絡事項は、ほぼ「さくら連絡網」を使用していた。本校では連絡事項の6割ほどを「さくら連絡網」、4割を紙媒体としている。理由としては、保護者に配布するものをすべて「さくら連絡網」で一斉送信すると子どもを介さない発信になるので、子どもたちにも配布物の内容を知ってほしいねらいがあり、あえて紙媒体を使用することもある。この「さくら連絡網」だが学校ごと、利用頻度に差はある。

その他、情報発信の参考事例として教育委員会では、教員志願者を増やすため LINE を活用した情報発信を行っている。教職に興味のある若者が浜松市教育委員会の LINE に登録することで、採用に関する情報を手にいれることができる。他の市町村で教職志願者が減少しているなか浜松市では志願者が増加しており、情報発信について一定の効果が上がっている事例の一つであると考えられる。

情報発信は、講座やイベントのチラシ、広報はままつ等の紙媒体とともにインターネット・SNSを併用することで効果的な広報活動になっていくのではないか。また、それぞれの講座・イベント等の事業内容によりターゲットとなる年代層が変わるため、ターゲットとなる年代層に応じた広報活動が必要になるのではないか。

晝馬委員長：

紙媒体での情報発信に加え、インターネットや SNS の利用について、両者を組み合わせることや、各年代層に応じた広報が効果的ではないかという意見であった。生涯学習推進大綱の中に情報発信のことを盛り込むことは可能か。

事務局：

現行の生涯学習推進大綱の中でも「学習情報提供の充実」という文言があり可能である。予算的なことを考慮しつつ効果的な手段について検討していきたい。

晝馬委員長：

インターネットや SNS を活用する情報発信には新たな予算措置が必要になると思わ

れる。生涯学習推進大綱には「学習情報提供の充実」の中に具体的な情報発信の方法について記載できるか。

事務局：

生涯を通じて学びたいという市民が多くいるなか、情報発信について更なる充実が求められていることは調査結果から明らかになった。生涯学習推進大綱の改定において、どこまで具体的に示せるかは現段階で明言できないが、情報発信に関する文言は明記していきたい。

晝馬委員長：

情報発信について、他のご意見を伺いたい。

飛田委員：

私がボランティア団体を立ち上げた際、当初は 5 名程の参加であったが、現在では毎週 20 名程が参加している。団体周知には、チラシも使用したが、参加者に参加した理由を尋ねたところ、知人からの口コミが主なものであった。

また、同じ場所で同じ活動を長年続けていると、その活動を実際に見聞きする人の中には、自分も参加してみようかという気持ちになる方もでてくる。チラシやインターネット・SNS を用いた情報発信に加え、口コミと活動の継続に注目することで一層効果的な広報活動となる。私の周りでは、チラシだけを見ても実際の様子が分からないことを理由にすぐに参加しようする人は少ないが、実際に参加した人の「よかった」という口コミがあると、参加率はあがる。

晝馬委員長：

講座を主催することもある村上委員からもご意見を伺いたい。

村上委員：

私の続けている講座は一時期に比べると受講者が減ってきているが、昨年あたりから 2 人、3 人と増加傾向で、知人同士の繋がりでも講座の見学にきたりもしている。まさに口コミの力が大きい。協働センターには、講座チラシが掲示されているが、一見しただけでは、どういった内容の講座かわからない。内容に踏み込んだような講座・イベントの周知があるとよいと感じている。例えば、多くの方が参加する協働センターまつりで講座内容を周知したり、体験できるブース等あれば、講座について分かってもらえるのではないかと。同世代からの声で多く聞かれることは、「学習したい意欲はある。協働センターで実施されている講座の内容や様子が詳しくわかれば参加してみたい」といったことである。効果的な広報活動をすれば、さらに生涯学習が盛んになると常々思っている。

晝馬委員長：

各協働センターごとにそれぞれ工夫しながら講座やイベントを開催しているが、プラ

ットホームのような一元化した媒体はあるのか。居住区の協働センターではなく他の地区の講座やイベント情報を得る手段はあるのか。

事務局：

生涯学習講座に関して、プラットホームのような一元化した媒体はない。

飛田委員：

浜松市のイベント情報は LINE から得ている。浜松市公式「しゃんべえ情報局」では、受信設定でイベントを選択でき、自分の興味あるイベント情報が次々と配信され便利である。

松井委員：

私も浜松市公式 LINE「しゃんべえ情報局」のイベント情報登録をしている。使い勝手がよく分かりやすい。協働センターの講座やイベントが入ってくると良いのではないかな。

事務局：

協働センターの講座周知方法は、基本的に2つある。1つはヒューマンセミナー等の全市域での広域で、広報はままつや市のホームページ、協働センター等に配架のチラシで募集をしている。もう一つは各協働センターの所管する地域住民を対象にした講座である。地域の方が協働センターに集まり、学び、地域づくりに繋がることに意義がある。20人から30人募集の講座を市全体に広報すると、その地域の方が受講できない可能性が生じ市全体に周知してない。

晝馬委員長：

広く周知しない理由が理解できた。

事務局：

情報発信について関係各所と協議の上、検討していきたい。

飛田委員：

若者に限らず、高齢の方でもスマートフォンを持つ方が増えてきている。スマートフォンをうまく活用することで、今まで協働センターに足を運ばなかった方の参加も増えると思う。今は情報発信・収集の方法の過渡期ではないかと感じている。

山本副委員長：

意識活動実態調査にて『生涯学習の情報をどこから得ていますか』の問いに答えている人は生涯学習に対して関心と時間にゆとりのある人である。関心や時間にゆとりのない人は、回覧板等で講座・イベントのチラシがあっても目を通さない。人生100年時代

といわれる昨今、こういう方たちに、自分らしく生きるとか、自分の幸福度を高めるといったことについて学ぶ機会を創出することを通して考える機会をつくるかが課題であると思う。生涯学習を広く周知することで、生涯学習に関心を持っていない方たちに学ぶきっかけをつくり出したい。

生涯学習の領域は広く、社会教育の中の家庭教育も該当する。親としてどうあるべきか、親子関係に悩んでいるご家庭も、生涯学習の講座等を利用することで学ぶことを通して、仲間づくりも可能になるのではないかと考える。実際に生涯学習の場に助けられた親御さんもたくさんいるはずである。生涯学習の場において家庭教育支援を充実させることが、家族の幸福度を高めることに繋がっていくと考える。

生涯学習を行うきっかけ作りとしては協働センターの講座や協働センターまつりのイベントの際に効果的な広報活動を行うことである。一度広報活動が上手くいけば、その後、能動的に調べる方が増えるはずであり、このようなスタート地点を作ることが重要である。

晝馬委員長：

働いていると多忙で、今の人生をさらに幸せで豊かにするために学ぶ時間をつくるといった余裕はない。しかし、働き方改革が進むにつれ、働きながらも学ぶ機会をつくる余裕が生まれるのではないかと考える。昨今、時代は変わりつつある。今をどう豊かに、幸せにするかということが大きなテーマである。多くの方に生涯学習を周知することがやはり重要であると考えている。

松井委員：

多くの方に生涯学習を周知するには、既存の方法だけではなく、今まで使用しなかったメディアにも注目すべきではないかと考える。また、講座の様子を個人情報に配慮したうえで YouTube 等の SNS に流すことも効果的ではないかと考える。講座やイベントの様子を協働センターだより等に QR をのせることで、今まで興味はあったが参加しなかった方々に、講座やイベントの様子を知らせることができると思う。

飛田委員：

協働センターだより等での講座・イベント等のお知らせには、QR が付いているか。

事務局：

全てではないが、QR のついたチラシは増えてきている。

飛田委員：

現役世代はもちろんだが、高齢者にもスマートフォンが普及してきているので、QR が付くのはよいことである。

中村委員：

講座やイベントの様子は、画像でみるより動画で見た方が実際の様子が伝わってくる。様子がわかることで実際に参加したいという気持ちになる方も多くなるのではないかな。プライバシーに配慮した上でこうした広報活動を行うことは効果的ではないかな。

季委員：

生涯学習の情報発信においては、情報格差があると思われる。紙媒体の広報を継続するとともに、SNS等を駆使することはもちろんであるが、講座等の参加者の口コミにも焦点をあてた方法、例えば講座受講者からの情報発信をお願いするといったことを模索していくべきではないだろうか。また、世代ごと、学習内容のニーズの把握が一層必要であると感じた。

晝馬委員長：

時代によって求められるものが変わるためニーズの調査は重要であり、ニーズを的確にとらえた講座やイベントを行うことで世代を超えて人が集まる。また、世代ごとのニーズの調査ももちろん重要である。その後の的確な情報発信していくことは、いうまでもなく大切である。

(2) 主要事業の実施状況について

■事務局より・生涯学習人財育成事業・浜松市と大学との連携事業について説明

■事務局より以下の通り報告

- ・都道府県・指定都市障害者の生涯学習推進に関する担当者連絡会について
- ・浜松市と大学との連携事業成果報告会について

＜令和7年2月27日、会場：浜松学院大学＞

3. 連絡事項

■事務局から以下の内容について連絡

- ・次回 第4回社会教育委員会令和7年3月予定 ＜会場：浜松市役所＞

4. 閉会